

★ クリスマスにチャリティクッキーセール・売上を寄付に！ 「ウェスティンホテル東京」

東京・恵比寿の子供地球基金からほど近い場所にある、ウェスティンホテル東京。そこで昨年のクリスマスシーズンに素晴らしいチャリティが行われました。ホテルのパティシエが焼いたサクサクのクッキーを、華やかなオーナメントで彩られたクリスマスツリーが飾られたホテルのロビーにて、チャリティ販売するという企画です。子供地球基金所蔵の子どもたちのアートも展示され、通りすがの宿泊客の方や、同時開催されたクリスマスキャロルを聴きにいらした方、小さなお子さんなどもこのチャリティクッキーを買いに来てくださいました。後日ウェスティンホテル東京より、このクッキーの売上金額 66,200 円を子供地球基金に寄付していただき、ベトナムの子どもたちの学用品代の一部として役立たせていただきました。



★ 子どもたちの絵が手洗い啓蒙ポスターに！ 「ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社」

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社のご協力で、今回、感染防止を目的に病院内に掲示される手洗い啓蒙ポスターのデザインに、子供地球基金所蔵の絵の中から選りすぐりの 11 点が採用されました。子供地球基金でも、病院の小児病棟はキッズ・アース・カーで訪れるところ。思い切り絵の具を使って絵を描いた後、病院の洗面所にこのポスターが貼られていれば、子どもたちがニコニコしながら手洗いができるようなものになりました。なお、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社様よりいただいたご寄付は、ベトナムの子どもたちのヘルスケアを支援する目的で、ベトナム第 5 号キッズ・アース・ホームの子どもたち 176 名の健康診断費や常備薬の購入費などに役立たせていただきました。



★ 丸の内・仲通りが「キッズ・アート・ストリート」に変わります！

アートフェア東京の関連イベントとして、今年で 4 回目となる「キッズ・アート・ストリート」。東京駅から有楽町駅までの丸の内・仲通りを中心としたショップやカフェ、ショールームに、子供地球基金が所属する、世界の子どもたちの絵画を展示します。

会期：2007 年 3 月 10 日（土）～ 4 月 12 日（木）
会場：丸の内・仲通りを中心とした協力各社・店舗
共催：アートフェア東京実行委員会



前回 2005 年のキッズ・アート・ストリートの様子（プラスリーオザミ）

NEW MEMBERS

新規にご入会いただいた方々です

（個人会員）

秋本 征紘 様 / 桜丘 百合子 様 /
高橋 美帆 様 / 村井 佐和 様 /
村上 順子 様 / 村重 庸子 様 /
山賀 聖子 様 / 山口 佳美 様 /
他 4 名

（団体会員）

株ゴールドウィン
株ファンドクリエーション

（ビッグファミリー会員）

中尾 慎吾 様

（2006 年 12 月 1 日～ 2007 年 2 月 28 日現在・五十音順）



私の一番のお気に入りの所 / My Favorite Place
リャン グオ フー / Liang Guo Fu
中国 / China
3 才 / Age3

©子供地球基金 / KIDS EARTH FUND

KIDS EARTH CAR Project

キッズ・アース・カープロジェクト

都内小児病棟～思いっきり描こう！私の心の中～

2007 年最初のワークショップは、絵の具を使って自由にのびのび描くことを目的に、いつもとちがってテーマを設けずに行いました。ある女の子からは「授業では（テーマが決められていて）好きなものがあまり描けないから今日は嬉しい！」とこちらまで嬉しくなる一言が。終わってみると、節分にちなんで鬼、独創的なキャラクターの絵、虹や、すてきな水玉模様まで、想像力豊かな絵がたくさん並べられました。子どもたちならではの、自由な色使いもまた印象的でした。

慈恵医大 ～院内に飾ろう！お花の絵～

3 月、もうまもなく訪れる春をイメージして、子どもたちとたくさんのお花の絵を描きました。使ったのは絵の具とキャンパス。春らしい色使いで個性あふれる作品ができあがり、病院内には一足早い春の訪れとなりました。出来上がった作品は院内に飾られる予定です。



色とりどりのお花が描かれたキャンパスが並びます



Photo by Laurent Ziegler



Photo by Laurent Ziegler

KIDS EARTH HOME Project

キッズ・アース・ホーム

2 月 7 日から 12 日まで、代表鳥居晴美がベトナムならびにカンボジアへ赴き、第 4 号、第 5 号ホームならびに第 6 号ホームの運営状況の確認と子どもたちとのアートワークショップを実施しました。

第 6 号 キッズ・アース・ホーム カンボジア『トイレ増設・図書室を完備』

カンボジアはご周知の通り、内戦、地雷、難民、飢餓、貧困という歴史的問題を抱えるとともに、雨季になるとメコン川が氾濫するなど環境の問題も抱えています。そのメコン川に程近い場所に位置する第 6 号キッズ・アース・ホーム / ブレックトレング小学校は、約 450 名の子供たちが基礎教育を受け、雨季などには道路も校庭さえも水浸しになる中、学校を楽しみに、遠くから徒歩で学校へやってきます。500 人の児童に対してこれまでトイレの数が極端に少なく、また現在あるトイレも水が流れず詰まっており全く機能をしていない状況でした。さらに詰まった水を流す為に、約 200 メートル離れた川の水を子どもたちが汲みにいっていました。これは小さな子どもにはとても重労働であり、また不衛生なトイレでは、裸足も同然でいる子どもたちにはあまりにも病気感染などの恐れが深刻でした。今回、三井住友銀行のご協賛により、これらのトイレにポンプを付け、改修と増設を行いました。



清潔なトイレの完成で、子どもたちも水汲みの重労働がなくなり、衛生面でも安心である。



図書室もリニューアル。不足している教材などを充実させ、学習意欲の高い子どもたちには補足的に指導することも可能な自習室と、新しい教材、児童書などを本棚に完備。子どもたちが自由に放課後勉強をしたり図書室として本を読むスペースが完成した。



ベトナムにある第 4 号キッズ・アース・ホームでのアートワークショップの様子。どの子どもたちも描くときは真剣そのもの。集中しています。(第 4 号ホーム／ベトナム)



ベトナム第 5 号ホームでのアートワークショップの様子。子どもたちが描いた正方形のキャンパスをつなげて、タスペトリーに仕上げる予定です。(第 5 号ホーム／ベトナム)



新しく購入したミシンを使って、職業訓練も行われています。子どもたちは手先が器用でとても上手。(第 5 号ホーム／ベトナム)

Kids Helping Kids

子どもたちによるボランティア活動の紹介～ニューインターナショナルスクールより～

子供地球基金では、子どもたち同士が救いあう社会作りのため、子どもたちによるボランティア活動を応援しています。その一つをご紹介します。

池袋にあるニューインターナショナルスクール (NewIS)。これまでもスクールの生徒たちが募金を集めたり、自分たちが描いた絵をプレゼントしてくれたりしていましたが、今回は第 4 号キッズ・アース・ホームの寄宿施設で暮らす 40 名の子どもたちを支援するために、スクール独自のチャリティプログラム”Child-lends-project”を実施してくれました。

NewIS では、まず生徒が手作りのストラップやブレスレット等を販売。その収益で、第 4 号ホームへプレゼントする使い捨てカメラを買いました。ホームの子どもたちがその使い捨てカメラで撮影した写真は、一部日本で現像され、NewIS の生徒が撮影した写真とともに、校内で展示されました。生徒たちはこの写真展でも、訪れた先生や保護者の方々より募金を集めて寄付してくださり、育ち盛りのホームの子どもたち 40 名分の洋服代として役立てられました。

こうしてまた一つ、“Kids Helping Kids”の輪が広がっていきました。

展覧会



玉川高島屋 S・C

●東京・千代田区

3 月上旬～4 月上旬
丸の内・仲通り
キッズ・アート・ストリート

●京都・左京区

4 月 16 日(月)～4 月 22 日(日)
ル・カフェ 338
KYOTO2007 実行委員会

●東京・千代田区

10 月 11 日(水)～11 月 4 日(土)
フォーシーズンズホテル丸の内 東京

●東京・世田谷区

11 月 15 日(水)～12 月 25 日(月)
玉川高島屋 S・C

●東京・世田谷区

12 月 5 日(火)～12 月 29 日(金)
日産厚生会玉川病院



コラム DEAR KIDS, DEAR THE EARTH vol. 16

新堂 彰子
子供地球基金理事

人の顔を映す鏡のように、見る人の心を映し出すのが子どもの絵のように思えます。絵を見ているつもりでも、実はその時、自分の心の動きに気づいたりするのです。どう感じているのか、またどう感じていいのか、戸惑ったり、キョロキョロしてしまう大人もいるのではないのでしょうか。この良さを理解できる感性が自分の中にどれほどある（残っている？）のだろうかと自問してしまいますこともあるでしょう。

実はたくさんの子どもの絵と接していると、不思議なことに絵の方から「おいで、おいで」してくれるのです。そして、あれっ？って近づいていくと、子どもの絵の前で素直に喜び、またその価値を心からの賞賛を持って認め、この喜びを広めたくなっている自分を見つけます。これが「子供地球基金」マジックなのです。この魔法が世界各地で様々な化学反応を起こし続け、人々を結びつけていると信じます。なぜなら、この私はその魔法にかかったまま 18 年がすぎようとしているからです。

(※ DEAR KIDS, DEAR THE EARTH は子供地球基金理事・顧問によるリレー式コラムです)